

じねん
自然の
こころ

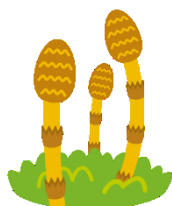
08
2022.3



(太陽の家ふきのとう)

「自然」とは 全世界 全宇宙の万物はまさに「自ずから然るべく」存在し動き流れているという思想です。自然流の会はその「自ずから然るべくあるがままに」という概念を、日々の生き方、暮らし方の規範として捉え、その生活活動を支える会です。

目次



- 山長商店・榎本会長と小林相談役の対談
- 山長商店さん天皇杯受賞
- 2050 年カーボンニュートラルに向けて 副理事長 松永潤一郎
- 「火災保険値上げ+割安な 10 年契約の廃止について」 会員 SXR.INC (山田真伍氏)
- 2022 年度 第 14 回年次総会のお知らせ
- 太陽の家 たより
- 編集後記



『日本の林業と家づくり、今とこれから』

山長商店 榎本会長と小林住宅工業 小林会長 特別対談会（於：小林住宅工業 設立 50 周年記念新春祝賀会）

令和 4 年 1 月 11 日（火）レンブランドホテル海老名にて「小林住宅工業 設立 50 周年記念新春祝賀会」が開催されました。その記念企画として、自然流の会相談役で小林住宅工業会長でもある小林康雄氏と、このほど第 60 回農林水産祭天皇杯を受賞された当会会員の山長商店会長榎本長治氏の対談が行われました。対談のテーマは『日本の林業と家づくり、今とこれから』について。「山長商店の創業からこれまでの歩みと、林業への想い」「自然流の家づくりについて、お施主様と関係者にお伝えしたい想い」「ウッドショック後の国産木材市場、今後の動向について」など、お二人から幅広いお話をおうかがいすることができ、貴重な対談となりました。

記念祝賀会終了後、自然流の会主催で、工務店支援機構風土里舎 横田秀雄氏（「どんとパネル」の開発者）にオンラインでご参加いただき、小林住宅工業モデルハウスでも使用している「どんとパネル」についての意見交換会を開催しました。さまざまな視点から、多くのご意見や考察が伺える会となりました。



『どんとパネル』とは…

工務店支援機構風土里舎（長野県上伊那）が、森林資源の有効利用にもつなげる工法として自社開発した、国産ヒノキや杉の無垢板を斜め張りした建築用高耐久木材パネル



山長商店さん 第 60 回農林水産祭天皇杯

受賞 おめでとうございます！

この度、山長商店さんが「第 60 回農林水産祭」の「天皇杯」を受賞されました！

この「農林水産祭天皇杯」は、1962 年より農林水産省と日本農林漁業振興会により実施されているもので、「国民の農林水産業に対する認識を深め、業者の技術改善および経営発展意欲を高める」ことを目的としています。

今回、山長商店さんの受賞は、「林産」部門での受賞となりました。

ほかにも受賞部門は、「農産・蚕糸」「園芸」「畜産」「水産」など、全部で 7 部門があります。

山長商店 会社 HP → <https://yamacho-net.co.jp/>





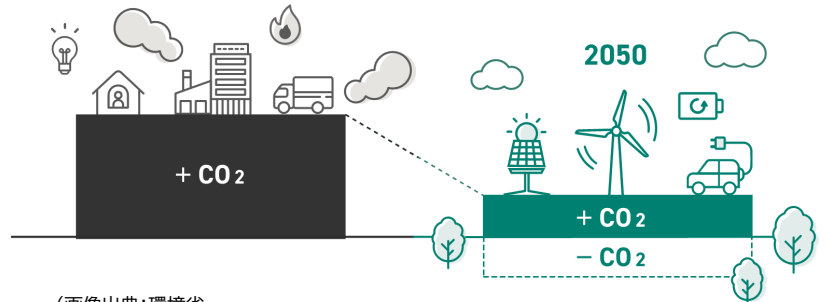
2050 年カーボンニュートラルに向けて



副理事長 松永潤一郎

近年、世界でカーボンニュートラル(※1)に向けた様々な動きが加速度的に活発化しています。

環境的に地球温暖化防止は待ったなしの課題であり、経済的にもこれに対応できなければ、世界経済から置いてけぼりにされてしまう危機が迫っています。また温暖化に起因すると考えられる自然災害(竜巻・台風の大型化、世界中で発生する異常気象や水害の増大等)も加速度的に増えてきています。我々が関わっている建築分野において、小さなことでも何か役割を果たせることはないか?と色々と考えさせられます。



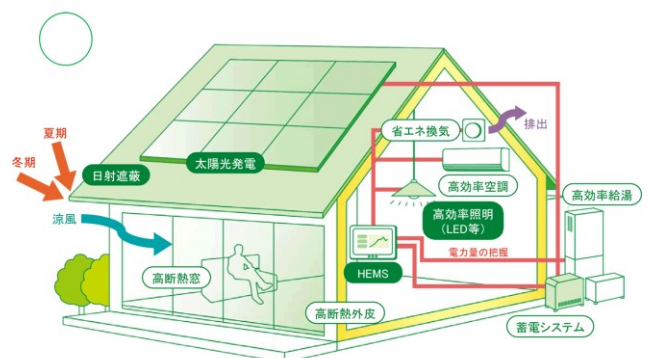
(画像出典:環境省
脱炭素ポータルサイトより引用)

2015 年 COP21 パリ協定(※2)時の日本の 2030 年における削減目標は、2013 年比 26%削減(住宅部門は 39%削減)でした。

しかし、2020 年 10 月の菅首相による「2050 年カーボンニュートラル」宣言では、2030 年目標が 2013 年比 46%削減(住宅部門は 66%削減)と大幅に目標が引き上げられました。その宣言を受けて昨年、「脱炭素社会に向けた住宅・建築物の省エネ対策等のあり方検討会」において次のような目標が設定されました。

- ・2030 年 までに新築される住宅・建築物について ZEH・ZEB 基準(※3)の水準の省エネ性能が確保され、新築戸建住宅の 6 割に太陽光発電設備が導入されていること
- ・2050 年 までにストック平均で ZEH・ZEB 基準の水準の省エネ性能が確保され、導入が合理的な住宅・建築物において太陽光発電設備等の再生可能エネルギーの導入が一般的となること

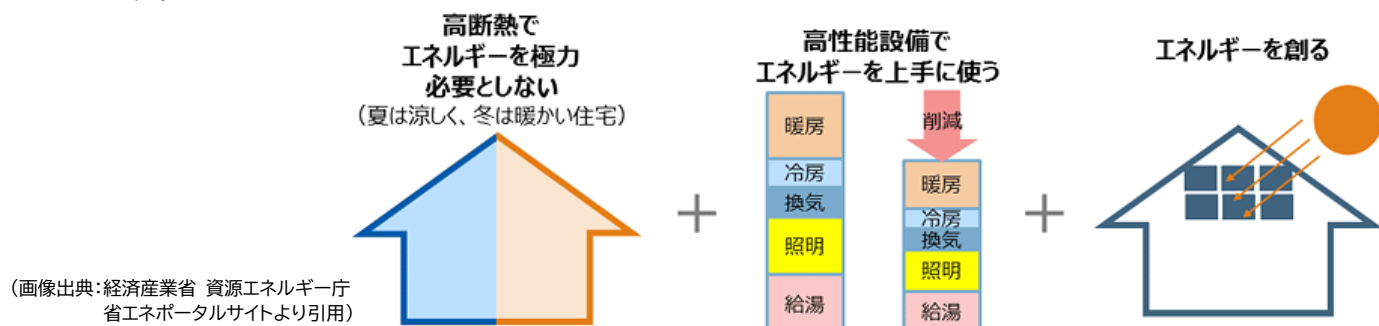
2050 年ストック平均で ZEH・ZEB 水準という目標は、ゼロカーボン社会を目指す以上当然必要な目標なのですが、ストック平均ということは新築のことだけを指しているわけではなく既存の省エネルギー性が少ない建物も改修を行い、再生可能エネルギーの導入を促進し、2050 年時点で建っている建物全ての平均(省エネ性が高い建物も低い建物も全て含めて平均)で ZEH・ZEB 水準に達している必要があるということになりますので、かなり高い目標となります。このように建築分野の省エネルギー化の推進に大きく舵が切られました。



(画像出典:経済産業省 資源エネルギー庁
省エネポータルサイトより引用)

建築分野での脱炭素の取り組みの特徴的は、例えば水素や風力発電といった先進的なこれから開発される技術とは違い、今ある様々な技術の組み合わせで、今すぐに取り組める技術であることです。2030 年、2050 年までと時間がない中で、すぐに取り組めるということはとても重要な事です。

健康で快適な暮らしを社会に広める活動をしている当会にとって、省エネと快適を実現し炭素の貯蔵効果がある木造である「自然流の家」を普及させていくことは、カーボンニュートラルの面からも社会的にとっても大きな役割を果たせることに繋がります。一度建てると長く使われる建築物ですので、より良いストックをいかに形成して社会的な責任を果たすかということに、より一層邁進していきたいものです。



※1:カーボンニュートラル・・・温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡にさせることを意味する。「植物や植物由来の燃料を燃焼して CO2 が発生しても、その植物は成長過程で CO2 を吸収しており、ライフサイクル全体(始めから終わりまで)でみると大気中の CO2 を増加させず、CO2 排出量の収支は実質ゼロになる」という考え方(環境省)

※2:2015 年 COP21 パリ協定・・・国連気候変動枠組条約締約国会議(COP):毎年開かれている地球環境に関する国際会議。2015 年パリで開催された COP21 にて国際的取り決め(パリ協定)が締結された。今期は 2021 年 COP26 がグラスゴーで開かれた。

※3:ZEH・ZEB基準・・・ZEH(ゼッチ)とはネット・ゼロ・エネルギー・ハウスの略。ZEH は住宅(House)で、ZEB(ゼブ)はビルディング(Building)を指す。高い「断熱」性能で室内環境の質を維持しつつ、高効率機器や設備による「省エネ」と、太陽光発電などによる「創エネ」を組み合わせ、使うエネルギーを創るエネルギー以下に抑え家のエネルギー収支をゼロ以下にした住宅又は建物のこと。



【出典サイト】

① 環境省 脱炭素ポータルサイト



② 環境省 ZEB PORTAL [ゼブ・ポータル] サイト



③ 経済産業省 資源エネルギー庁 省エネポータルサイト



各サイトより画像を引用しています。



「火災保険 値上げと+割安な年契約の廃止」



自然流の会 会員:SXR INC.(シカケル株式会社) 山田真伍 氏

昨今の台風、豪雨などの自然災害による保険金支払いの急増を背景として、2022 年 10 月に火災保険料の値上げ(改定)が行われます。これに伴い、「割安な 10 年契約の保険料」が廃止になり、「最長契約期間が 5 年」になります。



「なぜ火災保険の値上げをするのか？」

「損害保険会社の収支の悪化により火災保険自体が成り立たなくなる可能性がある」という現状です。2018 年度の国内自然災害に伴う、大手損保の保険金支払い額が、東日本大震災時を上回り、過去最大となりました。支払い保険料の増加傾向は当面続くものと考えられており、火災保険自体が成り立たなくなることを防ぐために、近年、短期間で値上げをしてきましたが、さらに 2022 年に値上げを行う予定です。

「火災保険値上げはいつ？」 → 2022 年 10 月 から

「割安な 10 年契約の火災保険が廃止」(最長契約期間短縮)になります。今回の改定により、火災保険の適用できる最長契約期間を、**「最長 10 年(現行)」から「最長 5 年(改定後)」**に短縮することになりました。(※2022 年 10 月 1 日以降が始期となる契約。各保険会社により時期が異なる場合があります)

「火災保険 10 年契約の廃止理由」

理由① 「10 年先のリスク予測が難しい」

近年の地球温暖化により自然災害の将来予測に不確実な要素が増しており、10 年先に災害リスクを予測することが難しくなっています。

理由② 「10 年の最長契約期間だと、値上げしても収支改善に時間がかかる」

契約者が「保険料改定の影響」を受けるのは、改定後の「新規契約」または「更新」のタイミングになります。そのため、消費者はすぐに「保険料値上げの影響」を受けませんが、保険会社としては、改定後、すぐに「保険料収入」が増えるわけではないため、収支改善にはかなりの期間が必要となります。

「火災保険料負担を小さくするには？」

今回の改定により、多くのプランが値上げになると予想されます。

改定前に「現在加入しているプランと契約期間」の見直しをおすすめします。

検討・見直しをオススメ

- ① 加入中の火災保険の契約期間が 10 年未満
- ② 火災保険の更新が近い
- ③ 家の新築、購入予定がある
- ④ 水災の補償がついてない
(または、ついていないかわからない)



お気軽に SXR INC.(シカケル株式会社)
までお問合せください！

担当:山田真伍

HP → <https://sxr.jp/>

電話:080-7196-7788(担当者直通)

e-mail:s.yamada@sxr.jp



総会のお知らせ

- 日時: 2022 年(令和 4 年) 5 月 28 日(土) 15:15~18:00 (受付 15:00)
- 会場: (株)小林住宅工業 レジリエンス住宅(モデルハウス)・オンライン
- 内容: ①総会(15:15~16:00) 前年度事業報告・今年度事業計画・会計報告^他
 ②特別講演(16:30~18:00) ※参加費無料・申込制
 「マイクロプラスチックってなに?~マイクロプラスチックが人に与える脅威~」
 講師: 高田秀重氏(東京農工大学農学部教授)



高田秀重氏 プロフィール

1959 年生まれ。東京都立大学大学院修了 環境学者 理学博士
 専門は「環境中における微量有機汚染物質の分布と輸送過程」
 1998 年からプラスチックと環境ホルモンの研究を行っている。
 2005 年からは International Pellet Watch を主宰
 現在、東京農工大農学部教授。日本環境化学会理事。英文誌 EMCR 編集長



「太陽の家」がある奥飛騨は、
 この冬は大変な大雪です。
 しかし純白の白銀の世界は素晴らしく綺麗です。
 これから季節は春に向かいます。
 大自然を満喫しにぜひ太陽の家にお出かけください。

編集後記

梅の花が咲き、温かい春は目の前です。

なのにウクライナでは、人々が恐怖のどん底に突き落とされています。いかなる理由があれ、人が人を殺戮することは許されてはなりません。一刻も早く、ウクライナに平和が戻ることを祈りたいと思います。「自ら然るべくあるがままに」という自然流の理念に則り、問題点や取り組み等を取り上げ、皆が少しでも暮らしやすい社会の構築に貢献出来るよう「自然のこころ」を編集して参りたいと思います。会員皆様からの投稿をお待ちしています。(佐原榮子)

